

# みくりや (御厨) 創刊号

国立駿河療養所広報誌



## 国立駿河療養所の理念

私たちは入所者の皆さまが安心して療養生活のできる環境の提供につとめます。

## 国立駿河療養所の基本方針

- 一 入所者の皆さまの人格を尊重します
- 一 安全で快適な生活ができるようつとめます
- 一 安心して受けることのできる医療を提供するようつとめます
- 一 ハンセン病の正しい知識をひろめ地域との交流をめざします

## 目 次

所長あいさつ、入所者車椅子バスレク	2
不自由者棟第1センター紹介	3
研究検査科紹介	4
委託診療事業室かわら版	5
医療安全管理室だより	6
食事で笑顔を	7
桜に込められた思い、納涼盆踊り・花火大会	8
施設見学について、入所者の活動	9
みくりやとは、アクセスマップ、職員募集、発行責任者	10

## 創刊号の発行にあたり

所長 青山 南圭

当療養所は、1944年12月傷痍軍人療養所として創設、翌年12月には厚生省へ移管され一般の方々も入所できる国立駿河療養所となりました。入所者数は、2012年7月4日で延数1,313名を数えましたが、1956年の471名をピークに減少し2013年4月1日現在72名です。



開設から68年、この間、入所者は「ハンセン病治療薬の出現」、「らい予防法の廃止」など歴史的な激動のときを過ごしてきました。

現在、当療養所は、入所者高齢化のなか、高齢重複障害者施設として「医療、療養、癒しと生活の場」の役割を担っています。

この度、地域の皆さんをはじめ多くの方々に当療養所を知って頂くために当療養所の情報と活動をお知らせする情報誌「みくりや」を発行することとなりました。春は桜祭り、夏には花火・納涼祭、秋は落語・音楽祭などの交流を通して、ハンセン病の知識を広め地域との一体化を目指します。さらに、当療養所が将来どのような形で地域へ貢献することが出来るかなど、将来構想計画にも全力で取り組んでいます。当療養所の情報誌「みくりや」が地域の皆さんとのさらなる架け橋の役割を果たすことを期待しております。

(了)

## 富士霊園お花見 車椅子バスレク

副所長 福島 一雄

4月18日の木曜日午後、昨年に引き続き、入所者の方々と共に富士霊園へ花見に行って参りました。富士霊園は富士山東方の山麓に位置し、車でおよそ30分の距離の公園墓地です。広大な敷地にはたくさんの桜の木があり、「日本さくら名所100選」にも選ばれた桜の名所です。昨年は車椅子の方も含め、入所者・職員が一体となって花見に出かけ、好評でした。今年も全入所者の約4割に当たる27名の参加者と職員あわせて、総勢70名を超える人数での外出となりました。大型バスをはじめとした7台の車と、車椅子を搭載した2台のトラックとともに出発しました。今年はいいにく満開時期が早まって、葉桜が主体で桜の花は山のところどころにある程度でしたが、心地よい風と晴れた青空の下で過ごす時間は格別でした。入所者の皆さんの笑顔や歓声に職員一同、今年もやれてよかったね、と思わず、笑みがこぼれる時間でした。大きなトラブルもなく、予定時間には全員無事に帰所しました。当日の写真を掲載しましたので、ご覧ください。



## 不自由者棟第1センター紹介

第1センター看護師長 植松小夜子

当療養所には大きく分けて治療棟（外来）、病棟（入院）、及び居住棟である第1センター、第2センター、第3センター、第5センター、一般舎（25寮）があります。

今回紹介するのは、不自由者棟第1センターです。ここは、平屋建ての棟が5列あり、それぞれに、高砂、寿、千歳、富士見、羽衣と名前がつけられています。そして、お部屋の前には庭が付いていて、季節の花々が咲き乱れます。まず、水仙がいたるところから芽を出し、白や黄色の花をつけ一番に目を楽しませてくれます。クロッカスの紫色にも気が付きます。そしてチューリップの芽も出始め、ボケの赤い大きな花、雪柳、どこから種が飛んできたのか小さなパンジーも見られます。少し、外を見渡すと桜の花びらが舞っています。バラは、春と秋にいくつもの花をつけます。藤、鈴欄、紫陽花。そして夏になり、朝顔、一日で白からピンクに変わる珍しい酔芙蓉もあります。まだまだありますが、これらの花の名前を教えてください入所者の皆様は最高齢の102歳の方を筆頭に平均年齢85歳となっています。しかし、病気の後遺症の程度はさまざまで、重症度の重い入所者が多いところですが、看護師14名、介護員14名が協力しながら入所者の健康年齢を上げるよう、元気で楽しく過ごせることを目標としています。そのため、室内の壁やカウンターにも季節のしつらえを工夫し、お天気の良い日には、眼の前にそびえる富士山を話題にして季節ごとの表情を楽しんでもらっています。視力の不自由な方とは、一緒に所内を散歩もします。これから高齢化はますます進みます。身体機能の維持とともに、脳機能の維持にも努めなくてはなりません。その一つとして、学習療法を取り入れています。まだ、参加者は少ないですが、成果をあげている方もいます。今後も参加者を増やしていければと思っています。また駿河療養所の職員として、「ハンセン病」の正しい知識を広めていくのも私たち職員の役割ではないかと考えます。



## 研究検査科の紹介

臨床検査技師長 桜井 強

当療養所検査科は、平成十一年に検査棟が建設され、入所者の皆様の健康管理や治療の一端を担うため、質の良い検査データを迅速に提供出来るように努力をしています。

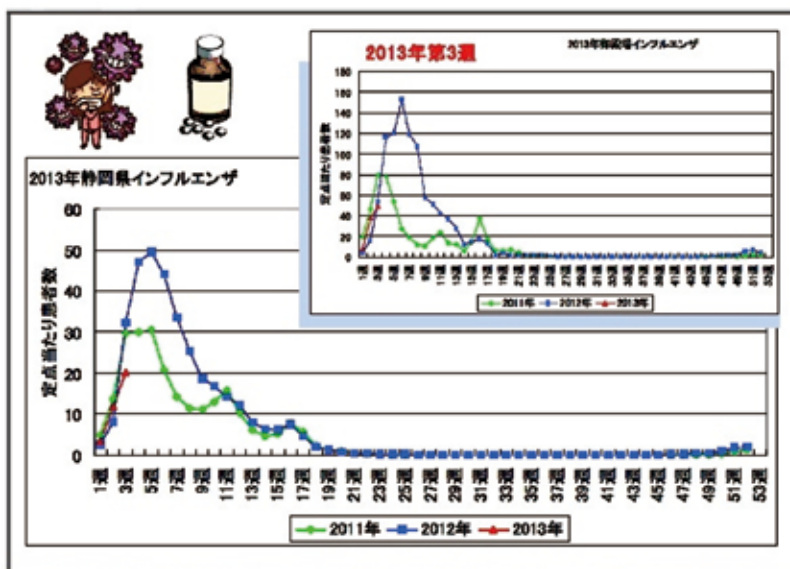
検査科には、様々な自動分析装置が整備されているため入所者の皆様は、療養生活を送りながら、一般病院と変わらぬ検査を受けることが出来ます。

測定した検査結果は、オンラインで診察室に送信され、直ちに臨床の先生方の診断に活用されます。

また、近年入所者の皆様方も高齢化が進んでいるため、感染症の感染防止対策が重要と なってきています。検査科では、細菌検査の充実をはじめ、様々な解析をおこない、感染 防止対策に積極的に参加しています。

平成二十三年からは、結核の診断補助となるクオンティフェロンという検査を導入し、 療養所内の基礎データを整えました。将来は地域医療にも貢献出来たらと思っています。

この様に、駿河療養所の検査科は、入所者の皆様の健康を祈りつつ、駿河療養所の将来 に向けて地味ですが、がんばっていますので、宜しく、お願いいたします。



私たち検査室は、感染症流行の 情報をいち早くお知らせして、 療養所内の感染防止に努めて います。



クオンティフェロン (ELISA) 検査



生化学自動分析装置

# 国立駿河療養所 委託診療事業室かわら版

第1号

発行日：H25. 5. 1  
国立駿河療養所  
委託診療事業室

始めまして。委託診療事業室です。治療棟外来に隣接し、医師1名・看護師2名の小さな部署です。年4回委託情報をお知らせしていきます。よろしくお願い致します。

## 5月は心身共に 疲れる時期

5月病という言葉があるように、心身ともに疲れる時期です。やる気がしない、肩がこる、頭が重いなどがおこりやすいです。

### 早寝早起きをしましょう

睡眠は、脳や体を促す大切な時間です。睡眠時間は、人によって違います。しっかり寝た感じが取れるようにしましょう。



### ご飯はしっかり食べましょう

朝ご飯を食べると体が目覚め、その日1日を元気に過ごせます。朝ご飯はよくかんで、しっかり食べるようにしましょう。

肩が凝る・頭が重い・心が疲れた時  
当院では、入居者の皆様に委託マッサージを行なっております。また、悩んだ時には一人で抱えず、人に相談しましょう。

## 地域の病院紹介

当院の医師不足に伴い、地域の病院に診察を依頼しております。

健康診断や、その他検査依頼において、お世話になっている病院紹介です。

のぐちクリニックを紹介します。

診療科：内科・消化器科・外科

鼻から管を入れる、経鼻胃カメラ検査を行っています。胃カメラ検査中は、丁寧な説明が受けられます。検査については、完全予約制となっています。

## 健康診断のお知らせ

健康診断を行なう時期となりました。ご協力お願い致します。

### 注意事項

検査内容：血液検査・尿検査・レントゲン・心電図・聴力検査・視力検査・その他（該当者のかたは、胃カメラ検査・子宮がん検査・乳がん検査等）があります。検査日や、内容は皆様同じではありませんのでよろしくお願い致します。

委託事業室では、入居者・職員の皆様に他病院・検査についての情報を提供しております。

詳しいパンフレットもあります。

委託事業室まで足をお運び、ご利用下さい。

健康一口メモ：笑顔で人と話しましょう。

★笑うと免疫力が向上します。

ナチュラルキラー細胞という免疫細胞が増えます。



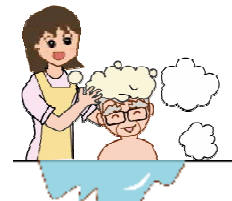
## 医療安全管理室だより

### ◎ヒヤリハット事例検討後の取り組みの報告（2例）

事例1 入所者が入浴直後に脱水状態をきたし血圧低下となった事例について  
（第1センター）

#### ○脱水予防対策について

- ①看護師が入浴前に処置室でバイタルサインの測定、体調の観察を実施
- ②入所者には入浴前の水分補給の必要性を説明し、介護員が食堂に白湯、トリメトロンを準備し、入浴前に水分摂取を促している。同対応にて入所者に入浴後の気分不快、その他脱水症状の発生がなくなった。



#### 事例2

別々のシリンジで薬剤を混合したが血管内留置カテーテルが閉塞した事例について  
（薬剤科）

#### ○注射薬配合変化実験報告

輸液フィルター目詰りの事例を受け薬剤科で以下の実験を行った。

#### ・実験

- ① ブドウ糖 5%500ml、ガスター、ビタメジン、ビタシミン、ミネリックを混合した。（混合は別シリンジで行い、十分攪拌後に次の薬剤を混合した。）遮光をせず、点滴速度 20ml/h で滴下し、24 時間後フィルターが目詰りするか観察した。  
結果、混合直後と 24 時間後でともに肉眼では外観変化は確認できず、フィルターの目詰りも起こらなかった。
- ② ①と同じ薬剤を、それぞれ個別のシリンジで攪拌せずに混同し同様の実験を行ったが、①の結果と同様に混濁は見られず、フィルターの目詰りも起こらなかった。
- ② ガスター、ビタメジン、ビタシミン、ミネリックを同一シリンジで混合するとシリンジ内で溶液の混濁が起きた。輸液本体に同混合液を注入攪拌後も懸濁は継続した。

#### ・考察

微量元素（ミネリック）とビタミン（ビタシミン、ビタメジン）を同一シリンジで直接混合すると懸濁を起こす。同薬剤を個別のシリンジで輸液本体に混合しても懸濁は見られずフィルターの目詰りも起こさなかった。補液本体と薬剤混合による懸濁は、薬剤の配合変化、温度や光などの環境因子、混合方法が大きく影響要因となる。また、細菌汚染による輸液ルートフィルターの目詰まりが報告されている。注意を要する。



## 食事で笑顔を！

前栄養係長 佐藤 英成

栄養班は、個性あふれる栄養士 1 名と調理師 5 名に事務員、盛りつけや配食を担当している派遣職員 4 名で、入所者の皆さんに笑顔になれるお食事をお届けしようと、日々努めています。

日々の生活で笑顔になって頂くためには、やはり、食事を楽しみに思ってもらくことと考え、様々な企画献立を取り入れてきました。今回はその一つで、平成 24 年 4 月より始めたお弁当献立を紹介致します。コンセプトは、期待が膨らむようなネーミングを献立名にして、四季を感じられる色彩と旬の食材を詰め合わせたお弁当としました。お届けの際にはお品書きカードを添えて、まずは目から楽しんで頂いています。期待膨らむネーミングの一例ですが、『春うらら桜満喫弁当』『梅見の便りかきの満喫弁当』になります。自画自賛するハイセンスなネーミングと思っておりますが、評価は皆さんにお任せ致します。

そんなお弁当の容器も、最初は使い捨て容器のお弁当箱を使用していましたが、8 月からは松花堂弁当箱を用意することで、より期待感を持って頂けるようになりました。

肝心の献立も旬の食材や季節感を感じられる食材を使用し、季節感じる献立構成に心がけています。2 月実施の『梅見の便りかきの満喫弁当』の苺の品種は「あまおう」を使用しています。こだわり素材も取り入れながら弁当箱に負けない献立作りに心がけています。

昨年の上には新しい給食棟が完成しました。新しい設備で、より入所者さまが笑顔になれる食事作りに、今後も工夫をこらしていきたいと思っています。

### 『平成 24 年度 栄養班特製季節のお弁当』 『平成 24 年 12 月完成の給食棟外観と調理室』



## 桜に込められた思い

福祉室（自治会事務所） 羽切 八寿子

かつて、箱根外輪山西側中腹がきれいな桜色に染まっていた事を知っているでしょうか。そこが駿河療養所だと知ることもなく、何気なく見過ごされてきました。この桜も、国賠訴訟熊本地裁判決で原告全面勝訴の判決が下された頃には植樹から半世紀を経て古木となり、テングス病の蔓延により数本が残るのみとなっていました。

その当時、入所者自治会では療養所の将来を真剣に模索し始めていました。近い将来、入所者が絶え、ハンセン病施設としての役目を終えた時、多くの物故者が眠る納骨堂はどうなるのか。誰 1 人訪れる者もなく歴史から消え失せてしまう事は絶えられない。せめてこの場所に駿河療養所が存在していたという証を納骨堂の柱に残せないものか。模索を続けた結果、ハンセン病の啓発・理解がまだまだ進んでいなかった時代、人知れず咲き誇っていた桜をもう一度蘇らせ、今度こそ桜の名所として地域から認知されることを期待し、『千本桜計画』として桜基金を募り、平成13年11月より枝垂れ桜の植樹を開始しました。スペースの限界と、台風等の被害もあり、現在は約500本が植えられています。

最初の植樹から10年以上が経過し、枝も重みをましてきました。毎年桜の開花に合わせて施設を一般開放しております。皆さまも是非、花見と共に、駿河からの眺望をご堪能下さい。



## 納涼盆踊り・花火大会

夏の恒例行事となっている駿河納涼祭の締めくくりに打ち上げられる花火。2001年の国賠訴訟熊本地裁判決での原告勝訴を記念して、花火が打ち上げられ、夜空を彩った事が始まりでした。『尊厳回復』の喜びと、療養所内にある納骨堂で眠る御霊の鎮魂、そして地元を始め、これまで支援を受けた人達への感謝の気持ちが込められた花火です。

花火の打ち上げによって地域の方々に向けて駿河療養所の存在をアピールし、地域の方々との新たな交流も始まりました。火の粉が降り注ぐかのような迫力の3000発の花火は、今年も駿河の夜を彩ります。





## 施設見学について

福祉室長 小林 昌美

国の負の遺産と言われているハンセン病療養所の施設見学者はここ数年増えてきており、所長並びに副所長そして駿河会会長による講話、福祉室職員による施設見学案内を頻繁に行っています。

平成24年度だけでも42件の申し込みがあり、週一回は講演と施設案内を実施していることとなります。どのような団体様が来所してくれているかといえば、各宗教団体、都道府県新規採用職員、各幼稚園・保育園父兄、市将来構想委員、各地区民生委員児童委員、各地区人権擁護委員、弁護士会司法修習生、大学生、専門学校生、高校生、御殿場の未来を考える女性の会、結核予防団体、ハンセン病問題を知りたい青年交流会、日本学生ボランティアセンター、静岡県議会議員、ハンセン病問題支援学生団体等々の方々です。

上記以外にも27都道府県の担当官が慰問のため来所され、案内等の対応もしています。

当所に来所されたことのない方、療養所の歴史と現在、そして将来について興味のある方は、是非、ご来所下さい。問い合わせは福祉室までお願いします。

## 国立埼玉大学の皆さま



## 入所者（山崎貞敏 様）の活動

第2センター看護師長 田中 絹子

カンボジアの内戦後の復興支援で、学校の校舎の更新築のために寄付（平成21年：4棟、平成22年：2棟）をされたことに対し高い評価を受け、平成24年4月にフンセン首相、教育大臣より表彰状を送られました。



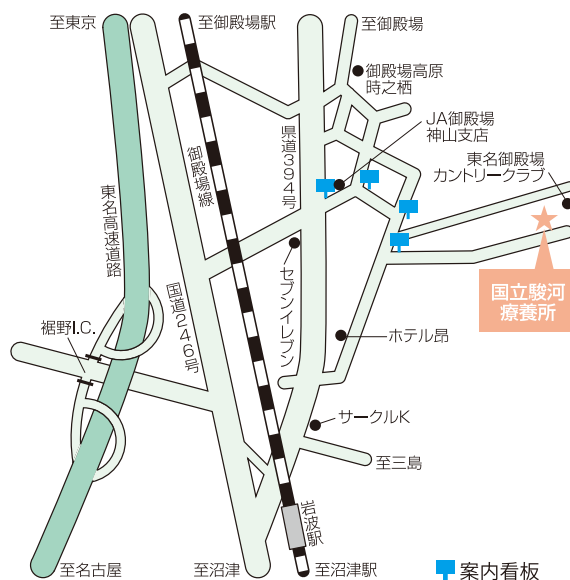
みくりや・みくり(御厨)とは、「御」(神の)+「厨」(台所)の意で、神饌を調進する場所のことである。本来は屋舎を意味するが、神饌を調進するための領地も意味する。

中世日本においては、皇室や伊勢神宮など、有力な神社が荘園(神領)を持ち、後に地名及び名字として残った。

当国立駿河療養所のある御殿場市、及び隣接する小山町と裾野市の一部を御厨(みくりや)と呼ぶようになったのは、平安時代後期(1100年頃)、伊勢神宮の荘園「大沼鮎沢御厨」があったためである。

因みに、御殿場の地名は、1617年に亡くなった徳川家康の遺体を久能山東照宮から日光東照宮へ移送する際に仮の御殿を建てて、遺体を安置したところから「御殿場」という地名は生まれた。

(ウィキペディアより)



国立駿河療養所上空から富士山を望む



### 職員募集 (看護師・介護員)

ここ国立駿河療養所の入所者の皆さんに関わることで、ケアの原点を見つめ直すことができます。ぜひ、一緒に働きましょう  
お問い合わせは、総看護師長室までお願いします。

発行責任者：青山 南圭

発行所：国立駿河療養所

住所：〒412-8512 静岡県御殿場市神山1915

TEL：0550-87-1711

FAX：0550-87-1921

発行日：平成25年5月